

図書館の窓から

4
2011.4
No.132



ぎざし
(兆 稲田亜紀子 / 画)

【特集記事】

◆私の一冊

市民映画館をつくる会 副会長 菅野 勝一さん …… 3 p

◆所蔵美術作品紹介

中央図書館・栃尾美術館所蔵作品を紹介 …… 4～5 p

◆としょかんぷらす

本を大切にしよう！～実際にある資料の惨劇～ …… 7 p

近年、中央図書館で自習をしたいという利用者が増えています。しかし当館には正式な自習室というものはありません。

その理由は、当館建設前（25年前）の「文化問題懇談会」「千人市民アンケート」「図書館



利用者懇談会」等を通じた検討の結果、資料をより多く利用していただくために、中央図書館には自習目的の学習室を設置せず、互尊文庫の3階に学習室を置くという決定に基づくものです。

その後、多くの要望を受け、3年前から2階の講座室1が空室の場合に限り、自習のできる部屋（最大42人収容）として開放しています。

時代の流れに合わせて、インターネット環境の整備、学生専

用室を設ける等、目的に合わせた複数の部屋を設置することが理想ですが、建物のリニューアルが不可欠で、莫大な予算がかかります。時間をかけて十分な検討を行う必要があります、しばらくの間は現在の使い方での運用せざるを得ません。

最後に、自習室を利用される皆さま、合間に書架をのぞいてみてください。今後の人生に役立つ素敵な本との出会いがあるかもしれません。

文書資料室だより

江戸時代の旅日記「^{かいたい}海岱日録」

寒さがゆるみ、あたたかさに誘われて、ふらりとおでかけしたくなる人も多いのではないのでしょうか。

「海岱日録」は、小林又兵衛（虎三郎の父）らが、嘉永元年（1848）に、伊勢参りをした時

の旅日記です。

長岡を出発し、草生津で渡し船に乗り、一日目は関原で宿を取りました。信州をまわり、木曾路、伊勢路のルートで、伊勢へ。お参りをした後、伊賀を越え、大坂へ。大坂城を見た時は

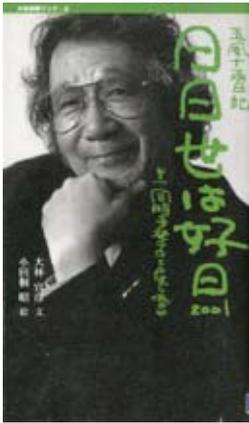
「眼を驚しもの也」と、嘆息。京都へ足をのばし、北野天満宮や金閣寺などたくさんの神社仏閣を巡っています。それより東海道を通り、途中、長岡藩主・牧野家の出身地である牛久保（愛知県豊川市）に立ち寄りとうして、脇道を歩いたら松林の中で迷ったという珍道中も。江戸では「鰻食」に行きました。江戸のグルメを堪能したのでしょうか。その後、芝増上寺などを見物しました。帰りは三国街道を通り、長岡へ。

読む程に味わい深く、読み手の数だけ楽しみ方がある旅日記。さて、どんな旅にでかけますか？



▲江戸・上野の不忍池が描かれたページ

（文書資料室 小林 良子）



『日々世は好日2001』
大林 宣彦／文
たちばな出版

私 の 一 冊

市民映画館をつくる会 副会長

菅野 勝一 さん

市民映画館をつくる会入会直後の今から約20年前、当時のメンバーで大林宣彦監督にお会いしました。NCホールでの講演会后、楽屋にみんなでお邪魔した際、監督と歓談の時間をいただき、こちらの稚拙な質問に親切丁寧に応えて下さり感激し震えていました。当時は『尾道三部作』を撮り終えてまさに名実とも人気監督として名を馳せた頃、いわば映画好きの憧れの大きな存在であり最も充実した時に長岡でお話できた事は強い印象となりました。この日の事が当会での活動を決定づけたものの一つと自分では思っています。

数多い大林監督の著作の中でも『日々世は好日2001』は何度も読み返しています。今から10年前に古里・尾道の地方紙等に

連載されたコラムを1冊にまとめたもので、折り目正しい映画論は勿論のこと、日々の出来事から社会へと目を向け映画人として責任ある発言を重ね、自作の舞台・尾道から端を発した“古里孝行”への思い、その出会いの中から1本の映画制作に向かう心情が誠実に綴られ、大変読み応えがあります。何度も出てくる“智慧”という熟語の通りこの1冊で幾度か“智慧”を授かる思いがありました。

そして白眉は時代のうねりに大林監督も否応なしに対峙させられ、あの“9・11同時多発テロ”が映画撮影中に起き、世界が再び正義を振り翳し^{かさ}戦争へと突き進む狂気の中、監督は戦争を体験した世代として正気を保ち思考を重ねて身を削る思いで映画作りに邁進します。その姿

はまさに圧巻です。そんな世界が吹っ飛ぶかもしれない中で敢えて古里映画「なごり雪」に心情を託していきます。

10年後の今夏。ご存知のように大林監督は戦災慰霊の花火である長岡花火をテーマにした映画をこの長岡で撮影します。これまで蓄積した平和への思いを込めた集大成的な1作となる筈です。そこには“9・11同時多発テロ”の最中に正気の映画作りをした経験も込められることと思います。そんな意味からも大林監督の映画に対する姿勢を読み説くことができる1冊としてこの本を挙げたいと思います。

ちなみにこの本には意表を突く形で長岡アジア映画祭も登場します。その点もご注目下さい。

●● すがの しょういち ●●

- ・昭和45年生まれ
- ・三条市出身
- ・市民映画館をつくる会 副会長、長岡アジア映画祭実行委員長
- ・市民映画館をつくる会ブログ <http://tsukurukai.blog103.fc2.com>



中央図書館

昭和62年（1987）、中央図書館は、2階に美術センターを設け、当時市内に無かった美術館としての機能を併せ持つ施設として開館しました。展覧会を見た後、図書館の本で作家や作品についての知識を深めてもらうという狙いがあったのです。市内に美術館ができた今もお、中央図書館は美術資料を数多く収集し、文化活動や情報発信に努めています。

◆川瀬 巴水「六十余州之内 越後湯沢」1941年

24.3×36.5cm (かわせ・はすい 1883-1957)

渡辺木版画美術画舗工作 摺師 斧銀太郎

反町茂雄文庫

残雪の山を背景に、暖かな春の日ざしを浴びた農家の庭先には洗濯物が干され、雪囲いの取り外しが行われています。長い冬から開放された喜びが感じられる越後湯沢の春の風景です。川瀬巴水は、東京生まれ。白馬会の岡田三郎助に洋画、鏗木清方らに日本画を学び、30代の頃から版画を始めました。後、生涯の3分の1を費やして全国各地の風景を精力的に写生してまわり、約600点もの木版画を残したといわれています。その旅情あふれる作品の数々は、多くの愛好者を得ています。当館では、本作と「雪の小千谷」の2点を所蔵しています。



◆上杉 景勝「古名歌色紙帖」年代不詳 各27.7×24.7cm

色紙折本仕立 (色紙6枚の表裏に一首づつ貼付 計12枚) (うえすぎ・かげかつ 1556-1623)

反町茂雄文庫

右:「何ゆへに春の別はおしきそととふへきはなの散にけるかな (慈鎮)」

左:「おもひ河たえすなかるゝ水の泡のうたかた人にあわてきえめや (伊勢)」

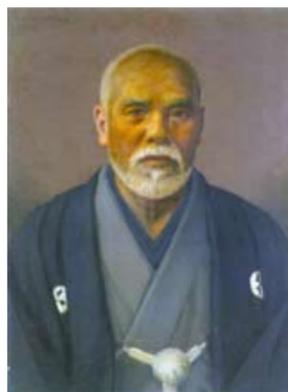


上杉景勝筆と伝えられる書。古今集などから選ばれたと思われる名歌（漢詩含む）が書かれた12枚の色紙が金銀箔を散らした料紙に貼られており、全体に大変雅やかな印象です。当館が所蔵する景勝関連資料の中では、異色な存在といえるでしょう。

◆高村 眞夫「互尊翁画像」1948年 73×53cm カンバス・油彩

(たかむら・しんぶ 1876-1954)

「互尊独尊」の理想を掲げ、大正記念互尊文庫の創設に私財を投じ貢献した実業家野本恭八郎（互尊）の肖像画です。作者の高村眞夫は、旧長岡藩士の子。上京して同郷の小山正太郎の画塾不同舎に入門し、青木繁・荻原守衛・坂本繁二郎らとともに洋画を学びました。主に太平洋画会や官展を舞台に活躍、一方、太平洋画研究所で教鞭をとり多くの後進を育てました。戦争を機に長岡に戻り、生涯制作に打ち込んだといえます。確かな描写力と重厚な作風で互尊翁の面影を伝えるこの肖像画は、現在中央図書館の応接室に飾られ、我々を静かに見守っています。



所蔵美術作品紹介

中央図書館・栃尾美術館で所蔵する美術作品をご紹介します。普段目にすることができない貴重な作品の数々をお楽しみください。

(諏佐 志保 近藤亜希子 山田 紀子)

栃尾美術館

栃尾美術館は、上杉謙信公以来の由緒ある歴史と豊かな自然に育まれた栃尾地域にふさわしい「ふるさと美術館」となるよう、平成7年（1995）に開館。さまざまな事業を行う中で、年数回、ふるさとゆかりの作家を紹介する館所蔵品展を開催しています。



◆富川 潤一「浜焼き」1968年 第11回日展 130×162cm

カンバス・油彩 (とみかわ・じゅんいち 1907-1995)

富川潤一は栃尾生まれ。シベリア抑留後、昭和23年、新潟市に定住し、本町市場などの風景を描くようになります。ライフワークになった「市場・浜焼きシリーズ」のはじまりです。生活感のある市場の風景は、常に創作意欲をかき立てられた題材の一つであったようです。



◆増井 和弘「旭」1991年 週刊ポスト1月4,11日号掲載 182

×227cm カンバス・アクリル (ますい・かずひろ 1929-2009)

新津出身の増井和弘は、美術教師のかたわら、「幾何学的直線抽象画」をテーマに描く画家として活躍しました。作品は第一期～三期に大別され、「旭」は二期に描かれたものです。二期は直線や円形で日本的な美を表現した時代でした。作品はニューヨーク近代美術館や山梨県立美術館などにも収蔵されています。



◆椿 悦至「森立峠からみた守門山」1993年 65×80

cm カンバス・油彩 (つばき・えつし 1914-2003)

栃尾に生まれた椿悦至は、11歳のころ長岡に移住。長岡中学卒業後、本郷絵画研究所に修学します。終戦後、3年間教員として栃尾中学校に勤務後、上京して太平洋画会の会員となります。後、太平洋美術会会長に就任。作品からは、まだ白い守門山を遠くに望みながら、森立峠の木々の合間に描かれた桜色が印象的で、待ち遠しかった故郷の春の訪れを感じさせます。

◆風間 四郎「新宿伊勢丹開店ポスター」1933年 105

×76cm ポスター (かざま・しろう 1902-1996)

栃尾出身の風間四郎は、童画家として「よいこ」や「マミイ」の表紙絵で知られている一方で、戦前はグラフィックデザイナーとして百貨店のポスター広告などを手がけていました。当時は、斬新なデザインを表現したことから、流行作家として広く活躍していました。



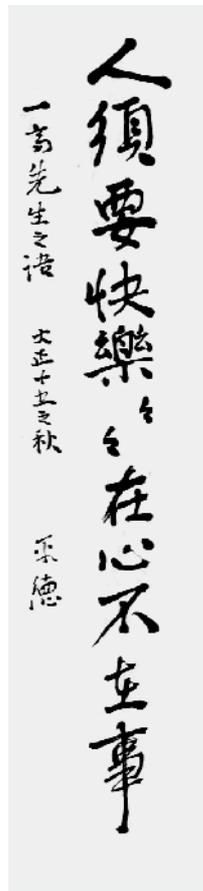
三島徳蔵は三島億二郎の長男で安政2年（1854）の生まれ。戊辰戦争で長岡城落城後は、小山良運らと共に会津方面に移動、戦後長岡に戻り、明治2年には藤野善蔵ら9名と一緒に慶応義塾に入学。明治10・11年、長岡学校（現長岡高校）の授業生として勤務し、同14年6月から16年2月まで第5代校長となりました。

その後、蔵王の石油会社の重役となり、経済的に恵まれましたが、米国企業との関わりのなかで、やめざるを得なくなり、父億二郎が力を入れている北海道開拓の事業に関わっていくことになりました。父の第2回渡道にも同行しており、移民募集にあたっては、長倉の了元寺副住職の小泉元瑞の心を動かす演説をし、渡道させたという話が伝わっています。

掲載の書は、江戸末期の日本語による漢文訓読法を創った佐藤一斎の語句です。人間にとって快樂は必要であるが、それは心の中で生み出されるべきものであり、物や催し即ち形あるものに求めるべきものではないということ。快樂が官能的なものであったら、心の貧しさをみることになる、戒めの意を含んでいる語句です。（今井 雄介）

人は、^{すべから}須く快樂を要す
快樂は心に在りて、事に在らず
注…々々…繰り返しの表現

人 須 要 二 快 楽 一
一 斎 先 生 之 語 大 正 十 五 之 秋 平 徳
々々々々 (快樂)
在 心 不 在 事



郷土資料紹介 - 読むタイムトラベル① 原始・古代 in 越後 -



『縄文文化の起源をさぐる
小瀬ケ沢・室谷洞窟』
小熊 博史／著 新泉社

数多くの遺跡を発掘調査した長岡の考古学者・中村孝三郎。日本最古の土器を追い求めた阿賀での調査は、縄文時代研究に多大な影響を与え、出土した土器や石器は国の重要文化財に指定されました。本書ではその調

査・研究の成果をわかりやすく解説。細かな造形の石槍や、最古級とは思えないほど繊細な文様を持つ土器、多数の動物骨などからは、1万年以上昔を生きただけの人々の生活が見えてきます。（五十嵐一樹）



『新潟の国新潟』
新潟県立歴史博物館／編
新潟日報事業社

縄文時代の文化を象徴する“土器”。新潟では、昭和11年（1936）ころに長岡市の馬高遺跡で近藤篤三郎によって発掘された“火焰土器”が有名です。細やかな文様と、燃え上がる炎を思わせる造形。そして、そこ

から見えてくる文化・生活。本書の火焰土器に関する研究からは、奥深さを感じずにはられません。火焰土器から歴史を読み解く、縄文時代へのタイムトラベルを楽しんでみてはいかがでしょうか。（中川 寛子）

としょかんぷらす

本を大切にしよう！

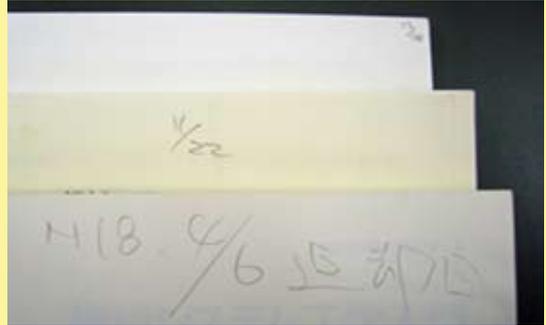
～ 実際にある資料の惨劇 ～

長岡市立図書館全体では、年間約170万点の貸出があります。

何十年と利用され続ける資料もあれば、わずか数週間で汚損や破損により貸出できなくなるものもあります。

ここでは、資料がたどった悲惨な末路の一部を紹介し、改めて資料の取り扱いについてお考えいただきたいと思います。

図書館資料は、長岡市民1人1人の大切な財産です。大勢の市民が長く利用できるよう、大切に扱いましょう！



表紙をめくると、そこには自分が借りた日や、返却日が書かれたメモ書きが…

マナーを守る！

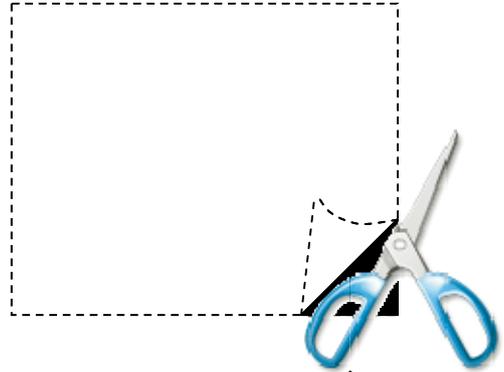
どし解できる技術者がどれほどいたでしょうか？

このような状況が、規定を「作る」側に何らかの利益——もはや余計な気遣いは不要である——をもたらしていることは間違いありません。が、その一方、規定を「使う」側（設計者）がこの事態に大いに困惑しているのかというと、これが意外とそうでもありません。言うまでもなく、コンピュータプログラム

にしかならないことはコンピュータにやらせるしかないからです。このような

sophisticated = 洗練されたコンピュータ。

アンダーライン、補足事項等を記入している。



飲み物をこぼした痕跡が見られる。



ページの一部が切り取られている。

【注意！】

- 読書時、返却に来館される際など、飲み物や天候などに十分お気をつけください。
 - 小さなお子様やペットがいらっしゃる場合は、資料の管理に特にご注意ください。
 - 資料への記入、切り抜きはおやめください。
- ※資料は一部コピーができます。

イベントガイド（4月～6月）※全て参加無料です。

【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

4/22(金)『タイム・マシン』 H. G. ウェルズ／著

5/27(金)『花の下にて春死なむ』 北森 鴻／著

6/24(金) (未定)

【子どもの本を読む会】 中央図書館2階 講座室1 10:00～11:30

作者や作品についての感想、テーマの本についての思いを語り合う会です。

4/13(水)『100万回生きたねこ』 佐野 洋子／作・絵

5/11(水)『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ／原作（新訳）

6/8 (水) まどみちおさんの本

【映画会】 中央図書館2階 講堂 14:00～

4/12(火)「美女と野獣」(1946年フランス、93分)

4/24(日)「ぼくたちと駐在さんの700日戦争」(2008年日本、110分)

5/10(火)「會議は踊る」(1931年ドイツ、95分)

5/22(日)「バグダッドカフェ」(1987年ドイツ、104分)

6/5 (日)「阿賀に生きる」(1992年日本、115分) 他4本

6/26(日)「沈黙を破る」(2009年日本、130分)

【文化講座】「お江の時代と越後（仮）」

5月15日(日) 中央図書館2階 講堂 14:00～15:30 (開場 13:30)

講師 矢田 俊文氏 (新潟大学人文学部教授)

受付 4月12日(火)から 窓口または電話で

定員 180人 (先着)

◆6月8日は長岡市の図書館の創立記念日です

中央図書館では記念日に先立ち、6月5日(日)に郷土映画まつり等を開催します。

図書館ニュース

◆インターネットサービス 拡充

インターネット予約が、複数冊をまとめて予約できる「予約かご」方式に変わります！ショッピングサイトの「買物かご」のように予約情報を「予約かご」に入れて溜めることができたり、上下巻などのシリーズを上巻から順に予約できるようになるなど、活用方法の幅がさらに広がります。

あわせて、所蔵雑誌の検索もパワーアップ！一覧表のタイトルから、所蔵状況を確認して予約できるようになります。

具体的なサービス開始日や詳細については、今後館内の掲示物等でお知らせします。

お詫びと訂正

130号の所蔵資料紹介No.126木村誠一郎の文中「古賀洞庵」は「朝川善庵」でした。お詫びして訂正いたします。

~~~~~ あとがき ~~~~~

待っていた春本番、活動的な季節がやって来ました。夜空の星座を眺めたり、読書で思いをめぐらせたりもいいものです。
(渡辺 茂)

平成23年4月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住 所 長岡市学校町1-2-2

編集員 渡辺 茂 渡辺 雄亮 山田 紀子
金安 麻子 岩本 純子

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印刷 北越印刷(株)

名 称	電 話	休 館 日
中央図書館	32-0658	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
互尊文庫	35-7981	毎週木曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
西地域図書館	27-4900	
南地域図書館	30-3501	
北地域図書館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256-97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	互尊文庫と同じ
文書資料室	36-7832	
栃尾美術館	53-6300	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ※展示替等による臨時休館あり